連載 教材化の工夫 3

「短歌・俳句、それぞれの表現」(二年)

小冊子を作って短歌・俳句に出会う

新しい国語の教材化を考える会

短歌・俳句に「出会う」

物教材として登場した。

物教材として登場した。

物教材として登場した。

が教材として登場した。

然とした印象で終わってしまう。大切なのは、歌(句) も漠い いきいきと活動する授業を提案してみたいと思う。そのいきいきと活動する授業を提案してみたいと思う。その際、いちばん大切なことは、日ごろ、短歌や俳句にふれ際、いちばん大切なことは、日ごろ、短歌や俳句にふれ際、いちばん大切なことは、日ごろ、短歌や俳句にふれいきいきと活動する授業を提案してみたいと思う。そのいきいきと活動する授業を提案してみたいと思う。そのいきいきという。

現とていねいに向き合わせることが必要だと考える。作品に感動をもって出会うには、表現を深く味わい、作品に感動をもって出会うには、表現を深く味わい、に込められた思いにきちんと出会わせることである。に込められた思いにきちんと出会わせることだと思う。

い、次の三点をふまえて単元を構想した。 短歌や俳句に親しもうという気持ちが育つことを願

まるでカメラのようにとらえる詩だ」とある。のようなものだ」「対象と作者の心とが触れ合う瞬間を、と生活感を表すことを得意とする。一方、俳句は「写真生観なども歌います。」とあるように、短歌は人の思い生観なども歌います。」とあるように、短歌は人の思いを観なども歌います。」とあるように、短歌は人の思いを歌い、また人類科書に「短歌は喜びを歌い、悲しみを歌い、また人

文から読み取らせたい。 それぞれの表現の特徴を教科書収載の短歌と俳句の全

近代短歌の革新運動をおこした正岡子規の22短歌・俳句の「作者との出会い」

理解させたい。漫然と読むのとは違った味わいが出てくるということをを例にして、作者についての知識をもって作品を読むと、近代短歌の革新運動をおこした正岡子規の短歌と俳句

本校では、総合的な学 本校では、総合的な学 で、それをわかりやすく て、それをわかりやすく で、それをわかりやすく である」という課題に取り組ませることが予定されていた。そ とが予定されていた。そ



形にまとめ、紹介し合うという実践を計画した。思い、短歌・俳句について自分が調べたことを小冊子の

指導の実際全4時間扱い

新事事票 単元名 小冊子を作って短歌・俳句に出会う

指導目標

- 一、韻文の特質を学び、親しむ態度を育てる。
- する態度を養う。つけさせるとともに、読書生活を豊かにしようと報を集め、情報を効果的に活用させる能力を身に料集や学校図書館を利用するなど広い範囲から情、好きな歌、テーマに合う短歌や俳句を求めて、資
- やすく伝える力を育てる。三、収集した情報をもとに創作をし、編集してわかり

指導の流れ

短歌と俳句の革新 「聞き取りメモ」を書く。短歌と俳句の特徴を理解する。「短歌と俳句、それぞれの表現」を読み味わう。第一次 短歌と俳句の表現の特徴を知る 1・5時間

26

聞き取りメモ

二年 組 番 氏名

短歌と俳句の革新・正岡子規・話を聞き取り、メモを完成させよう。

1 革新とは...

「写生」論

なさい。また、そう思う理由も述べなさい。 短歌・俳句を資料の中から選んでそれぞれ書き2 正岡子規が病気を患っていたことが想像できる、

短歌

(理由)

俳句

(理由)

3 子規という雅号は(

第三次 できあがった小冊子を紹介し合う(情報交換)

感想を交換する。 の・5時間

、まとめ)、「学習を振り返って」を書き、学習内容を整理する。

学習を振り返って

るようになりたい。
わい深いものだと思った。それをうまく感じとれいろいろなことが詰め込まれていて、とても味のだと思った。この五・七・五の中に短くても、なかった。その人の気持ちや考えがよくわかるも私は俳句がこんなに奥深いものだとは思ってい

いうものが成り立つんだと思った。(女子生徒)どんなことでも気持ちが入ることにより俳句と俳句は人の素直な気持ちが表れていると思う。

句であっても、それが作者の心との出会いであったなら、き直すこと」で作者に出会えるのだと感じた。たとえーを真剣に「読むこと」に繋がり、それを他の文体に「書マに合う歌(句)を多数の作品から選ぶのは短歌や俳句このような「学習を振り返って」を読みながら、テーこのような「学習を振り返って」を読みながら、テー

第二次 テーマをもち、小冊子を作る 1・5時間

して使用)(課題解決) ・小冊子を作る。(A3のコピー用紙を八つ折りに、小冊子を作る。(A3のコピー用紙を八つ折りにをの中から好きな作品を三つ選ぶ。(選択) 教科書や資料集の活用、図書館の利用(情報収集)

小冊子作りの手順

- を小冊子の表紙に書く。・選んだ作品に共通する「タイトル」を考え、それ
- ・解説書などを読み、自分の「読み」を批正する。
- どを入れる。させて、冊子にていねいに書き込み、イラストな・選んだ三つの作品と、それぞれを他の文体に変換

は、短歌・俳句を次のような形にすることである。選んだ作品(一首・一句)とそれを文体交換させると

詩に書き直したり

四こま漫画にしたり

歌物語にしたり

すること。(感想を書いてもよい。

時間がない場合は、家庭学習などにする。・最後に「あとがき」を添える。

小冊子は、文化祭で展示したところ、好評であった。本実践は、総合的な学習の時間の導入の役割を果たし、得るものは大きかったと感じる。

